福中だより

☆☆☆教育目標☆☆☆　希望 創造 潤い

昭島市立福島中学校
令和8年11月2日 NO.7
042－541－2940
創立47年目（昭和55年開校）

人との接し方を考える



校長　前川　法彦

先日、合唱祭が無事終わりました。ひとつになって歌う姿に、感動しましたとの多くの方々から言葉をいただきました。また、運営へのご協力ありがとうございました。福中生が「心を込めてがんばれた、ひとつのものをつくりあげた」と、達成感と成就感につながる、賞を超えたすばらしい体験ができていればと思います。

さて、東京都教育委員会では 11 月をふれあい月間としています。行事等の取組から友達との距離が近くなるころです。もう一度人との関わり方を考えてみましょう。

生活の中で、自分自身のことを振り返る機会はどのくらいあるでしょうか。成功したこと、しなかったこと。今回は、30 年以上前の先輩のお話を書いていきます。

その日、先輩はご家族で一緒に買い物をする約束をしていましたが、出かける直前に些細なことで家族と言い合いになり、先に家を出てしまいました。しかし、時間になっても待ち合わせ場所には家族がきません。「遅れているのかな」と考えましたが、現代のように SNS で連絡を取り合える時代ではなかったため、少し待つことにしたのですが、それでも来なかったので、その日は無理をせず家に戻ったそうです。帰宅したとき、出かける準備をしていたご家族が倒れていました。先輩は、驚いて救急に連絡して一緒に病院に向かいましたが、残念ながら帰らぬ人になったということでした。

いまでも先輩は、言い合いになったまま出かけたことが、一番の心残りだと話していました。大切な人が突然いなくなってしまうというだけでなく、けんか別れのようになり、謝ることもできず、それが最後の会話になってしまった。もう言葉を交わすことができない、時間を戻せるものならと後悔したそうです。だから、どのようなときでも、顔を見せて笑顔で出かけるようにしていると話していました。

いま、自分を振り返ってどうでしょうか。皆さんは、家族、友達の他にも多くの人と関わっています。人は、感情がある生き物ですから、その時どきによって感じ方や思うことが違うことがあるのは自然なことです。しかし、いつどこで何が起こるか誰にも分かりません。後悔しないように、家族、身近な人との時間を大切にしてほしいと思います。